

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 笈善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ~

会場： コクヨホール(東京都)

一般講演Ⅲ

座長： 昭和大学 小川 良雄

13. 女性の性機能亢進症状に対し
柴胡加竜骨牡蛎湯を使用し有効であった
1症例

女性医療クリニックLUNA心斎橋¹⁾
LUNA骨盤底トータルサポートクリニック²⁾
大阪市立大学大学院医学研究科泌尿器病態学³⁾
○二宮 典子¹⁾³⁾、大林 美貴¹⁾、中村 綾子²⁾
玉田 聡³⁾、関口 由紀²⁾

【緒言】性機能障害は女性の場合、①性的関心・興奮障害、②オルガズム障害、③骨盤痛・挿入障害に分類されるが、①は低下に対する分類が一般的であり、性欲の亢進についての分類や治療法は見当たらない。今回われわれは、女性の性欲亢進に対し、医療用漢方エキス製剤で治療し奏功した1例を経験したので報告する。

【症例】49歳女性、既婚、出産歴なし。既往歴に特記すべき異常なし。X年7月に帯下異常を主訴に当院受診。カンジダ膣炎として加療を行い治癒したが、夫以外のセックスパートナーとの性交渉が発症の原因であり、自分の性欲が抑えられないことを訴え同年10月に再診した。採血ではE2、FSH、LH値に異常を認めず、内診や超音波検査で明らかな異常を認めず、西洋医学的な治療適応はないことを説明したところ、漢方的治療を希望された。身体の特徴として少し落ち着きがない印象があり、特に目元の動きが多かった。腹診では軽い胸脇苦満を認めた。舌診は、細で舌先の発赤あり。ツムラ柴胡加竜骨牡蛎湯7.5g分3毎食前の処方を開始した。投与4週間まで自覚症状の変化なし。6週目からは精神的ないらだちが少なくなった自覚あり。現在も処方継続中である。

【考察】柴胡加竜骨牡蛎湯(傷寒論)は「比較的体力があり、心悸亢進、不眠、いらだち等の精神症状があるものの、神経衰弱・神経性心悸亢進、ヒステリー、陰萎」に効果があるとされ、男性の性機能障害に対する処方に応用される。今回われわれは、女性の異常な性欲亢進を神経性心悸亢進・ヒステリーととらえ処方を行った。一般的に女性では性欲は男性よりも低いとされるが、中高年女性における精神症状は時に性欲の亢進を訴えるものがあり、一般的なホルモン補充療法では効果が得られない。漢方処方の中でも女性の精神症状には加味逍遙散(和剂局方)が有効であり、柴胡加竜骨牡蛎湯との鑑別が必要であると思われた。

【結論】女性の性欲亢進に対し柴胡加竜骨牡蛎湯が有効であった症例を経験した。